

瀬戸市の不登校の現状

不登校については、コロナ禍による閉塞感の影響も大きく、現在急増しており対策は全国的に喫緊の課題である。ここ数年の傾向として、不登校の低年齢化も顕著になっており、不登校期間が長期化することも危惧される。(文部科学省 令和3年度問題行動・不登校等調査)

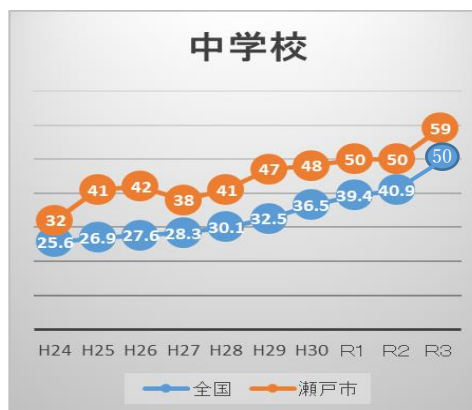
子どもたちの Well-being を目指し、児童生徒の不登校は、今年度に解決に向けた対策を打ち出したい「最重要課題」として、校長会から市長に対し提示されている。

8月に公表された「瀬戸市教育委員会事務の管理及び執行の状況の点検・評価報告書(対象:令和3年度)」の総評(p. 78)においても、最重要課題と位置付けられている。

不登校となる要因は、学校、家庭等様々であるが、取り巻く環境によっては、どの児童生徒にも起こり得るものとして捉えていくことが重要である。市内の児童生徒1000人当たりの不登校者数推移は、以下ようになっており、本市の不登校は、全国平均と比べても、高い状態で推移し、近年著しく悪化している。

小学校においては平成30年度から令和3年度にかけて倍増していることが確認できる。また、不登校児童生徒割合が10%を超える学校もある状況。

		H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R3年度
小学校	全国	3.1	3.6	3.9	4.2	4.7	5.4	7	8.3	10	13	④人数 99人
	瀬戸市	7	8	7	7	7	7	7	8	12	15	割合1.5%
中学校	全国	25.6	26.9	27.6	28.3	30.1	32.5	36.5	39.4	40.9	50	⑤人数 199人
	瀬戸市	32	41	42	38	41	47	48	50	50	59	割合5.9%



↓
 小中合計
 人数298人
 割合3.0%

また、令和4年度の統計(5月)では、小学校においてすでに前年度比1.5倍以上の増加率となっており、対策は一刻の猶予も許されない状況にある。

	令和3年5月	令和4年5月	増加率
小学校	74	116	156.8%
中学校	129	124	96.1%
全体	203	240	118.2%

不登校に対する総合的な対策案

子どもや家庭の多様な状況に対応し、不登校が長期化する前に対策を講じることが重要(さもないと、長期の引きこもりとなる恐れがある)。教育委員会としては、学校長等との検討会議を設置し、総合的な対策を実施するため、企画・準備を進めている。

参考となるデータ等

・文部科学省調査

令和3年10月 不登校児童生徒の実態把握に関する調査報告書（不登校児童生徒の実態把握に関する調査企画分析会議）・・・児童生徒や保護者へのアンケート調査
.....3ページから30ページに抜粋

・瀬戸市の調査

令和4年10月7日 西村則子先生による子育て講演会の際の保護者アンケート
.....31 ページから 35 ページ